

みずほマーケット・トピック(2022 年 4 月 22 日)

内容 1. 為替相場の動向

2. 来週の注目材料

※誠に恐れ入りますが、「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。

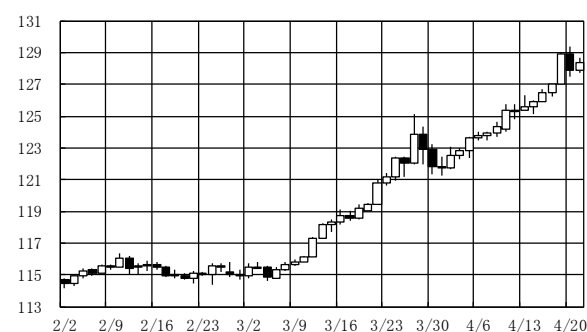
1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- 今週のドル/円相場は週半ばに129円を突破。週初18日、126.60円付近でオープンしたドル/円は東京時間にこれまで円安を容認してきた黒田日銀総裁の円安けん制発言を受けて一時週安値の126.25円まで下落。海外時間に入ると米長期金利上昇やブラッドセントルイス連銀総裁によるタカ派的な発言が支援材料となり、127円ちょうどをつけた。19日、ドル/円は米長期金利上昇と株式市場の堅調推移を横目に続伸し、129円手前付近までじりじりと値を上げ前日の高値を更新した。20日、ドル/円は日米金融政策格差を意識したドル買いに加えて、5・10日に伴う実需のドル買いから129.43円をつけ、約20年ぶりの高値を更新。その後はポジション調整の動きや米長期金利の低下から一時127円台後半まで下落した。21日、ドル/円は前日の水準から反発し128円台後半まで上値を切り上げた後、ポジション調整の動きから127円台後半まで反落。その後は米金利上昇や複数のFRB高官によるタカ派的な発言にサポートされ128円台前半まで持ち直した。本日のドル/円は128円台半ば付近の取引となっている。
- 今週のユーロ/ドル相場は週後半にかけて上昇、堅調推移した。週初18日、1.0815でオープンしたユーロ/ドルは上値を伸ばすも場面もあったが、イースター休暇で取引参加者が少ない中、米金利上昇に伴うドル買いが重しとなり米国時間にかけて1.07台後半まで下落。19日、ユーロ/ドルは前日に続き米金利上昇を背景としたドル買いが優勢で一時週安値の1.0762まで値を下げ、その後も軟調地合いとなった。20日、ユーロ/ドルは米長期金利が低下に転じたことで徐々に値を上げ、1.08台を回復。その後も独3月CPIの市場予想を上回る結果やECB関係者のタカ派的な発言に1.08台半ばまで上昇し、堅調推移となった。21日、ユーロ/ドルはデギンドスECB副総裁による7月の利上げ着手の可能性を示唆する発言を受けて一時週高値の1.0936まで急伸。その後は、米金利上昇に伴うドル買いに押され1.08台前半まで反落した。本日のユーロ/ドルは前日の水準での取引が継続している。

今週のおもな金融市場動向(出所:ブルームバーグ、みずほ銀行)

		前週末	今 週			
		4/15(Fri)	4/18(Mon)	4/19(Tue)	4/20(Wed)	4/21(Thu)
ドル/円	東京9:00	126.17	126.62	127.15	129.33	128.00
	High	126.70	127.00	128.97	129.43	128.70
	Low	125.90	126.25	126.98	127.47	127.82
	NY 17:00	126.56	126.99	128.91	127.89	128.38
ユーロ/ドル	東京9:00	1.0819	1.0815	1.0780	1.0795	1.0850
	High	1.0831	1.0821	1.0815	1.0867	1.0936
	Low	1.0796	1.0770	1.0762	1.0785	1.0824
	NY 17:00	1.0810	1.0781	1.0788	1.0855	1.0831
ユーロ/円	東京9:00	136.58	137.00	137.10	139.45	139.03
	High	136.85	137.03	139.07	139.69	140.00
	Low	136.42	136.47	136.97	138.45	138.81
	NY 17:00	136.60	136.93	139.07	138.81	139.06
日経平均株価		27,093.19	26,799.71	26,985.09	27,217.85	27,553.06
TOPIX		1,896.31	1,880.08	1,895.70	1,915.15	1,928.00
NYダウ工業株30種平均		-	34,411.69	34,911.20	35,160.79	34,792.76
NASDAQ		-	13,332.36	13,619.66	13,453.07	13,174.65
日本10年債		0.24%	0.24%	0.24%	0.25%	0.25%
米国10年債		-	2.85%	2.94%	2.83%	2.91%
原油価格(WTI)		-	107.61	102.05	102.19	103.79
金(NY)		-	1,986.40	1,959.00	1,955.60	1,948.20

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- 米国では、28日(木)に1～3月期GDP(速報)が公表される。10～12月期GDP(確報)は前期比年率+6.9%となった。内訳をみると、個人消費が同+2.5%と7～9月期の同+2.0%から持ち直した。設備投資も同+2.9%と7～9月期の同+1.7%から改善した。外需部門は輸出が同+22.4%と伸びが目立った。また、21年通年の成長率は前年比+5.7%となっている。今回の結果については冬場にかけてのオミクロン株拡大や、長引く供給制約と資源価格高騰によるインフレの影響で伸び悩みが予想されている。なお、ブルームバーグの事前予想では前期比年率で+1.0%としている。
- 欧州では、24日(日)にフランス大統領選の決選投票が実施される。現職で中道のマクロン大統領と極右国民連合のルペン党首がその座を争う構図となっている。ルペン氏はロシアへの経済制裁の反動として資源価格高騰を通じた国内のインフレ高進を批判し、この他にもEU協調への姿勢や自由貿易政策をはじめ現政権とは異なる政策指針を打ち出している。一度目の投票ではトップのマクロン氏も3割程度の得票に留まっており、今回の決選投票でも左派からの得票次第では混戦が予想されている。また、経済指標関連では29日(金)にユーロ圏4月消費者物価指数、ユーロ圏1～3月期GDPが公表予定である。
- 本邦では27日(水)～28日(木)に日銀金融政策決定会合が開催予定。前回3月会合以降も円安は進み、黒田日銀総裁は円安が日本経済にとってプラスとの見解を引き続き示すものの、そのスピードには警戒感を示している。かかる発言を踏まえ政策変更を求めて市場参加者による円売りが進んでいると見られ、日銀の政策決定とともに、黒田総裁の会見内容で相場が動く展開に警戒したい。また、今回は「経済・物価情勢の展望(展望レポート)」が更新される。ウクライナ危機の長期化によって経済の下押し、商品価格の高騰の影響を受けてインフレは上方修正される見込みが強く、その修正幅にも注目したい。

	本 邦	海 外
4月22日(金)	・4月製造業/サービス業PMI(速報)	・ユーロ圏4月製造業/サービス業PMI(速報) ・ユーロ圏2月経常収支
25日(月)	・2月景気動向指数(確報)	・米3月シカゴ連銀製造業活動指数
26日(火)	・3月有効求人倍率/失業率	・米3月耐久財受注(速報) ・米4月コンファレンスボード消費者信頼感指数 ・米3月新築住宅販売件数
27日(水)	・日銀金融政策決定会合(28日まで)	・米3月卸売在庫(速報)
28日(木)	・黒田日銀総裁会見 ・3月鉱工業生産(速報)	・米1～3月期GDP(速報)
29日(金)	_____	・ユーロ圏4月消費者物価指数(速報) ・ユーロ圏1～3月期GDP(速報) ・米4月ミシガン大学消費者マインド(確報)

【当面の主要行事日程(2022年4月～)】

フランス大統領選決選投票(4月24日)
 日銀金融政策決定会合(4月27～28日、6月16～17日、7月20～21日)
 FOMC(5月3～4日、6月14～15日、7月26～27日)
 ECB政策理事会(6月9日、7月21日、9月8日)

市場営業部・金融市場部
 チーフマーケット・エコノミスト
 唐鎌大輔(TEL:03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2022年4月21日	円の命運はまだ自ら変えられる～需給で円安の修正余地～
2022年4月20日	IMF春季世界経済見通し～戦争が変えるメインシナリオ～
2022年4月19日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2022年3月分)
	表舞台に引きずり出された日銀の現状と展望
2022年4月18日	本当に恐ろしい円安リスクは「家計部門の円売り」
2022年4月15日	週末版(ECB政策理事会を終えて～勝負は6月会合に～)
2022年4月14日	「インフレで苦しむ」を想像できない日本
2022年4月13日	円安を止めるには～日本要因と米国要因～
2022年4月11日	ECB政策理事会プレビュー～レーン理事に同調～
2022年4月8日	週末版(本邦2 月国際収支統計を受けて～円安の流れを変えられるかは日本次第～)
2022年4月7日	FOMC議事要旨～株価に対し非常に厳しい内容～
2022年4月6日	「日本売り」を認められない論陣をどう評価するか
2022年4月5日	過去最低を更新したドル比率～世界の外貨準備運用～
2022年4月1日	週末版(細る対内証券投資～今後も嫌われそうな日本市場そして円～)
2022年3月30日	日銀とトルコ中銀の類似性～ルールにも負ける円～
2022年3月28日	円安のメリット・デメリット～優勝劣敗の徹底～
2022年3月25日	週末版
2022年3月22日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2022年2月分)
	「貿易黒字の消滅」から「貿易赤字の定着」へ
2022年3月18日	週末版(GDPデフレーターに注目すべき局面～「デフレの原因はインフレ」という理解～)
2022年3月17日	FOMCを終えて～短期決戦型の利上げ。効果は24年以降～
2022年3月15日	円安相場の考え方～「三歩進んで二歩下がる」～
2022年3月14日	3つの円安要因～「成熟した債権国」が終わる時～
2022年3月11日	週末版(ECB政策理事会を終えて～「戦下の正常化」に着手～)
2022年3月9日	経常赤字は新常態なのか？～「債権取り崩し国」へ～
2022年3月8日	賃金上昇が遅れるユーロ圏、「嵐の前の静けさ」か？
2022年3月4日	週末版
2022年3月3日	ロシアのデフォルトはシステミックリスクになるのか？
2022年3月2日	ECB政策理事会プレビュー～安全通貨としてのユーロ～
2022年3月1日	日銀のロシア中銀取引禁止について～保有資産の実態～
2022年2月28日	SWIFT遮断にまつわる論点整理～7つのQ&A～
2022年2月25日	週末版
2022年2月24日	年初来の為替市場総括～円キャリー取引復活の兆候？～
2022年2月22日	孤立する日本株市場～「新しい資本主義」の誤解？～
2022年2月21日	ECB利上げの有無について～非公式政策理事会を前に～
2022年2月18日	週末版(「50年ぶりの円安」が意味するもの～「経済より命」路線の結末～)
2022年2月17日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2022年1月分)
	円相場の構造変化～変わる基礎収支の姿～
2022年2月16日	ラガルド講演を受けて～認める金融政策の無効性～
2022年2月15日	本邦10～12月期GDPを受けて～依然大きな内外格差～
2022年2月14日	「開始前から終盤」の様相を呈するFRBの正常化プロセス
2022年2月10日	週末版(ウクライナ問題～ドイツの自傷行為は止まらないのか～)
2022年2月8日	為替は金利の代わりに政治へアラームを鳴らすか？
2022年2月7日	米1月雇用統計～労働参加率上昇にも注目すべき～
2022年2月4日	週末版(ECB政策理事会を終えて～利上げは最速7月か？～)
2022年2月2日	沈む円相場の全体感と日本の現状
2022年2月1日	オーバーキル懸念が色濃くなる米国経済
2022年1月28日	週末版
2022年1月27日	FOMCを終えて～いつまで株価を無視できるか～
2022年1月26日	IMF見通し改定について～リスク満載の世界経済～
2022年1月25日	孤立感が強まるドイツ～シュルツ政権の迷走～
2022年1月24日	夜明けは近いのか、遠いのか～鳴かないカナリア～
2022年1月21日	週末版(インフレに変化を強いられそうなECBの政策姿勢～ドイツ10年金利は約3年ぶりにプラス圏へ～)
2022年1月20日	米実質金利上昇とドル相場への影響
2022年1月19日	日銀金融政策決定会合～「悪い円安」をどう処理するか～
2022年1月18日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2021年12月分)
	続きそうな「日本回避」～「市場の声」は届くのか～
2022年1月17日	既に漂うオーバーキル懸念～「最後のテーマ」は？～
2022年1月14日	週末版
2022年1月13日	円安と物価高と国民感情の近況について
2022年1月12日	「嵐の前の静けさ」を警告するIMF
2022年1月11日	信じて貰えないECBのハト派姿勢
2022年1月7日	週末版(FOMC議事要旨を受けて～「正常化レースの進捗」≒「為替の進捗」～)
2022年1月5日	欺瞞を晒したEUの天然ガス・原子力グリーン認定
2022年1月4日	2022年、円安・ドル高シナリオの死角は「日銀の正常化」か？
2021年12月28日	2022年の為替概観②～「2つの正常化」と新興国～
2021年12月27日	2022年の為替概観～2つの「正常化」が作る世界観～
2021年12月24日	週末版
2021年12月23日	円相場の近況～5年ぶり値幅、最低の取引量、感染拡大～
2021年12月22日	無視はできない需給面のドル安リスク
2021年12月20日	2021年に浮上した「悪い円安」論を再考する
2021年12月17日	週末版(ECB政策理事会を終えて～「ラガルド・バズーカ」と利上げ見通し～)
2021年12月16日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2021年11月分)
	FOMCを受けて～今度はインフレが「一時的」であるリスク？～
2021年12月15日	「安い日本」を体現するアパレル生産日本回帰報道
2021年12月13日	41年ぶりの企業物価上昇～圧迫される企業収益～
2021年12月10日	週末版(いきなり外交的試練に直面するドイツ新政権～北京五輪という「踏み絵」～)
2021年12月8日	2022年も「日本回避」がテーマか～首相演説を受けて～
2021年12月7日	過去最大のインフレ率を前にECBはどう動くか
2021年12月6日	弱い雇用統計とFRBの正常化プロセスについて
2021年12月3日	週末版(FRBの政策運営をどう考えるか～本当の正常化プロセスは23年以降に～)
2021年12月2日	変節し始めたECB～減らないPEPP、隠れる本音～
2021年11月29日	アフター・メルケル政権誕生へ～新連立の見どころ～
2021年11月26日	週末版
2021年11月25日	再び浮上する「合意なき離脱」リスク～6年目の混乱～
2021年11月24日	ドル/円、115円台突破を受けて～色濃い日本回避～
2021年11月22日	欧州の感染再拡大の影響をどう見るか？
2021年11月19日	週末版
2021年11月17日	10月貿易統計を受けて～補強される円安シナリオ～